

会期中の併催イベント

表彰式

日時：3月23日(月) 14時00分～15時00分
会場：S9会場(7号館6階講堂)

プログラム

14:00- 第1部 学術業績への表彰
第2部 化学会事業関連の表彰

第100春季年会 特別記念講演会

日時：3月23日(月) 15時15分～16時30分
会場：S9会場(7号館6階講堂)

第1年会(1948年)が東京と大阪で開催されて以来、回を重ねて、今年度の春季年会は第100回という節目の年会にあたります。川合眞紀会長、野依良治元会長、小林喜光会長最終候補者に第100回を記念して、今後の年会と日本化学会について語っていただきます。

プログラム

15:15- 化学オーケストラ
15:30- 日本の科学の生命線：国際化してダイバーシティー
2018、2019年度会長 川合 眞紀(分子研)
15:50- 「日本の化学」が真のCentral Scienceになるために
2002年度会長 野依 良治(JST)
16:10- 地球と共存する化学 ～Chemistry as a Service～
2020、2021年度会長最終候補者 小林 喜光(三菱ケミカルHD)

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付。

問合せ先：日本化学会 総務部 河合・田中

電話(03)3292-6161

E-mail: soumu@chemistry.or.jp

ノーベル化学賞受賞記念講演会

主催：日本化学会 第100春季年会実行委員会
日時：3月24日(火) 15時25分～16時30分
会場：SB会場(13号館1階1311教室)

第100春季年会実行委員会では、旭化成株式会社・名誉フェロー 吉野 彰先生によるノーベル賞特別講演会を企画いたしました。講演は、質疑応答を含め1時間を予定しております。

プログラム

15:25- 主催者 挨拶
15:30- リチウムイオン電池が拓く未来社会(旭化成・名誉フェロー) 吉野 彰

参加費：年会参加登録者に限る。

申込方法：本企画では定員を管理するため、入場整理券を下記の配布所にて3月24日8:30より配布いたします。聴講を希望される方は必ず整理券をお受け取りの上、ご参加下さい。

整理券配布所：7号館入口付近

配布方法：お一人様1枚のみ。受取り時に参加登録証の提示が必要です。なお、整理券配布は所定枚数がなくなり次第終了いたします。定員は500名を予定しています。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

市民公開講座 夢をかなえる科学

主催：日本化学会 第100春季年会実行委員会

共催：東京理科大学

後援：野田市教育委員会、柏市教育委員会

日時：3月22日(日) 13時25分～17時

会場：SB会場(13号館1階1311教室)

春季年会実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回も市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

13:30- 新たな魔球は創りだせるか(理研) 姫野 龍太郎
14:20- 枯山水とヒトゲノム ～余白領域への科学～(東工大生命理工) 相澤 康則
15:20- スーパー分子をつくる(名大 WPI-ITbM) 伊丹 健一郎
16:10- 睡眠覚醒の謎に挑む(筑波大 IIS) 柳沢 正史

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

実験教室 ～不思議なカラーマジック！～

主催：日本化学会 第100春季年会実行委員会

共催：東京理科大学

後援：野田市教育委員会、柏市教育委員会

協力：日本化学会 普及・交流委員会

日時：3月22日(日)

会場：東京理科大学 野田キャンパス 3号館1階 分析化学実験室

私たちの身のまわりで化学がどのように役立っているかを広く知ってもらうために、小学生を対象とした実験教室を開催いたします。

プログラム

実施全3回 (1)10:00- (2)12:30- (3)14:00-

(実施時間は約1時間) ※詳細はWEB

(<https://www.csj.jp/nenkai/100haru/5-2.html>) をご覧下さい。

参加費：無料

対象：小学生

申込方法：事前申込制(先着順)。WEBの申込フォームよりお申込み下さい。

URL: <https://www.csj.jp/nenkai/100haru/5-2.html>

問合せ：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

付設展示会

主催：日本化学会

協力：(株)化学工業日報社

共催：東京理科大学

後援：一般社団法人日本科学機器協会・一般社団法人日本分析機器工業会・日本薬科機器協会・一般社団法人日本試薬協会

日時：3月22日(日)～24日(火) 10時～17時

会場：森戸記念体育館

参加費：無料

出展社：(1月20日現在)

(株)アイシス、(株)アイビック・リサーチ、朝日分光(株)、(株)朝日ラボ交易、アドバンスソフト(株)、イカジャパン(株)、石原産業(株)、ウェーブファンクション・インク、英弘精機(株)、HPCシステムズ(株)、ACS PUBLICATIONS、(株)エリカオプテカル、エルゼビア・ジャパン(株)、大塚電子(株)、オプトシリウス(株)、(株)化学工業日報社、一般社団法人化学情報協会、(株)化学同人、関東化学(株)、CAS、有限会社桐山製作所、楠本化成(株)、(株)グローブボックス・ジャパン、(株)ケー・エヌ・エフ・ジャパン、コンプレックス(株)、(株)シーエーシー、CEM Japan(株)、シーシーエス(株)、重松貿易(株)、四国化成工業(株)、システム・インストルメンツ(株)、(株)システムハウス・サンライズ、柴田科学(株)、ジャパンハイテック(株)、シュプリンガー・ネイチャー、シュレーディング(株)、湘南丸八エステック(株)、(株)神鋼環境ソリューション、(株)セルシステム、(株)ダイセル、ダッソー・システムズ(株)、田中貴金属工業(株)、(株)DFC、(株)デジタルデータマネジメント、TAYLOR & FRANCIS ASIA PACIFIC、(株)テクノシグマ、輝達商事(株)、(株)東京インストルメンツ、(株)東京化学同人、東京化成工業(株)、東京ダイレック(株)、東京理化工機(株)、中村科学器械工業(株)、中山商事(株)、公益社団法人日本化学会学術情報部、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本試薬協会、日本製紙クレシア(株)、日本ゼオン(株)、日本電子(株)、日本ビュッヒ(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、ノーザンサイエンスコンサルティング(株)、(株)パーキンエルマー・ジャパン、パースルテンプスタッフ(株)、バイオタージ・ジャパン(株)、バイオタージ・ジャパン(株)、バイオ・ラッド・ラボラトリーズ(株)、(株)バキューブランドサイエンティフィック・ジャパン、浜松ホトニクス(株)、ハリオサイエンス(株)、ピー・イー・エス(株)、富士シリシア化学(株)、富士通(株)、富士フイルム和光純薬(株)、文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム、ブルカー・ジャパン(株)、(株)POL、丸善出版(株)、丸善雄松堂(株)、メトラ・トレド(株)、メルク(株)、(株)モルシス、山善(株)、(株)UNICO、(株)ユニソク、ユラボジャパン(株)、(株)ライトストーン、ラサ工業(株)、(株)リアクト、(株)リガク、ロイヤルソサエティー・オブ・ケミストリー・ジャパン(株)、(株)ロゼッタ、(株)ワールドインテック R&D 事業部、(株)ワイエムシイ、ワイリー、渡辺化学工業(株)

元素川柳コンテスト

日時：3月22日(日)～24日(火) 10時～17時

会場：森戸記念体育館

第100春季年会実行委員会は、参加者の皆様に「元素という切り口から、化学により親しみを感じていただきたい」との思いから、元素川柳コンテストを開催いたします。応募いただいた作品を付設展示会場に掲示します。

参加費：無料

申込方法：事前申込不要

問合せ：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

懇親会

日時：3月23日(月) 18時～20時

会場：東京理科大学 野田キャンパス Restaurant カナル1階

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生の参加費は低く抑えておりますので、ぜひお問い合わせの上ご参加いただけますと幸いです。

参加費：(予約) 一般5,000円、学生2,000円

(当日) 一般6,000円、学生2,000円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。※懇親会のみ参加も可能です。

問合せ：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

ATP 交流会

日時：3月22日(日) 17時40分～19時10分

会場：Restaurant 赤レンガ

気軽に立ち寄れる出会いと交流の場を、春季年会参加者の皆様に提供します。ATPセッションの講師やオーガナイザーも参加し、産官学の皆様がface-to-faceで交流できる貴重な機会です。アルコール、ソフトドリンク、軽食とともに、素敵なプレゼント抽選会などお楽しみも盛り沢山！是非お誘い合わせてATP交流会へお立ち寄り下さい。ATPポスター講演者・学生は参加費無料です!!

参加費：ATPポスター講演者・学生無料、一般1,000円

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ：日本化学会 企画部 白石、河瀬

電話(03)3292-6163

E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

Chem-Station イブニングミキサー

日時：3月24日(火) 18時～19時30分

会場：東京理科大学 野田キャンパス Restaurant カナル1階

学生や博士研究員を中心とする若手研究者や留学生の方に交流の場をChem-Stationより提供いたします。※詳細はWEB(<https://www.chem-station.com>)をご覧ください。

参加費：無料

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

JST さきがけ「1細胞解析」領域、 第6回成果報告会-3期生 (平成28年度採択)

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構
日時：3月23日(月) 9時30分～15時10分
会場：S8会場(講義棟7階 K705教室)

平成26年度10月に発足したJST-さきがけ「1細胞解析」研究領域では、細胞の表現型・機能・個性やネットワーク・発生過程等を1細胞レベルで定量的・網羅的に極限の精度と分解能で解析するための革新的基盤技術の創出を目指し唯一無二の方法論・ツール開発に挑戦する若手研究者を幅広い分野から結集して研究を推進してきました。今回の第5回の成果報告会では、平成28年度採択のさきがけ研究者の中から7名の研究者が、さきがけプログラムの中で開発した革新的な1細胞解析・操作技術とその生物学研究への展開をわかりやすく紹介します。併せて、野地博行教授(東京大学大学院工学系研究科)に特別講演をしていただきます。さきがけ「1細胞解析」の研究成果を幅広い見地から評価、ご助言いただきますとともに、成果の活用・展開への機会といたしたく、奮ってご参加いただくことをお願いします。

プログラム

- 09:30- 開会の辞(京大院工) 浜地 格
Session 1 特別講演 座長：浜地 格(京大院工)
09:35- 人工細胞リアクタ技術で「はかる」「つくる」「ふやす」(東大院工) 野地 博行
Session 2 座長：小澤 岳昌(東大院理)
10:30- 1細胞パルペーションデバイスの創製(九大院工) 加地 範匡
11:00- 自然乳化を利用したマイクロ水滴内単一細胞イムノアッセイ(東北大多元研) 福山 真央
11:30- 細胞内機能を模倣したポリマー製フォトニック結晶ナノ共振器アレイの創製と1細胞代謝産物の非染色検出・定量への応用(阪府大院工) 遠藤 達郎
Session 3 座長：島本 啓子(サントリー生命科学財団)
13:00- 脂質ダイナミクスの精密解析技術の創出(名大ITBM研) 多喜 正泰
13:30- 超高感度・非破壊1細胞グライコム解析技術の開発(産総研) 館野 浩章
14:00- 光応答性細胞固定化剤表面を用いた1細胞操作技術の開発と応用(東大先端研) 山口 哲志
14:30- 間葉系細胞の機能を制御する核酸アプタマースキャフォールド(東大院総合) 吉本 敬太郎
15:00- 閉会の辞(JST) 川口 哲

参加費：無料。日本化学会春季年会上に登録されていない方も無料で入場いただけます。

申込方法：下記サイトから申し込みをお願いします。

URL: <https://form.jst.go.jp/enquetes/SC-6>

問合せ先：国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略研究推進部
ライフイノベーションG さきがけ1細胞解析担当
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
電話(03)3512-3524
E-mail: presto.single.cell@jst.go.jp
領域 HP: https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/research_area/ongoing/1112066.html

新学術領域研究 『発動分子科学』報告会 ～化学者と物理系および 生物系研究者がコラボレーションする 発動分子～

主催：文部科学省 新学術領域研究「発動分子科学 エネルギー変

換が拓く自律的機能の設計」

日時：3月23日(月) 9時30分～12時30分

会場：S7会場(講義棟7階 K704教室)

生命は、「分子の機械的な動き」に「エネルギー変換」という機能を持たせることで、これまでの化学では到底創り出せないような機能を発現しています。新学術領域「発動分子科学」では、生体内で機能している分子機械の仕組みを、機械的・熱力学的に理解し、その概念を化学的に再構築することで、「分子が働く世界」の創造を目指しています。この企画では、物理学・生物学と化学の(主に若手の)研究者が集い、議論し、共同研究をしてきた、これまでの1年9ヶ月の研究成果を報告します。参加者とともに新しい研究領域を開拓してゆく場になれば幸いです。皆様のご来場をお待ちしております。

プログラム

- 09:30- 領域代表挨拶・領域の説明(東大院生命) 金原 数
09:45- DNA ナノ構造体上を走るタンパク質分子モーターの創出(情報通信研究機構) 古田 健也
10:10- 高速AFMによるDNAオリガミ分子機械駆動のリアルタイム観察(関西大化学生命工) 葛谷 明紀
10:25- 発動分子を目指した蛋白質制御のための物理化学的リガンド探索(東大医科研) 長門石 暁
10:45- 蛍光1分子観察法による膜分子の動態観察と機能の解明：G蛋白質共役型受容体の動的なモノマー・ダイマー変換(京大ウイルス・再生研) 笠井 倫志
11:05- 休憩
11:10- 発動分子の動きの集団化による時空間周期構造の形成と分子性材料の自律機能(北大院理) 景山 義之
11:30- 発動ゲル微粒子の一次元組織化・自己組織化(信州大繊維) 鈴木 大介
11:45- 発動分子の分子動力学シミュレーション(横浜市大生命医) 池口 満徳
12:10- 物理で理解する発動分子—1分子実験データから情報を絞り出す—(東北大院工) 鳥谷部 祥一

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接S7会場(講義棟7階 K704教室)にお越し下さい。

問合せ先：新学術領域研究「発動分子科学」事務局 寺西 優子
〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259

電話(045)924-5781

E-mail: secretary@molecular-engine.bio.titech.ac.jp

ご案内：令和2年秋に研究計画の公募を行う予定です。

HP: <http://www.molecular-engine.bio.titech.ac.jp/>

(JST) CREST「超空間制御」 研究成果報告会

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

日時：3月23日(月) 13時30分～15時45分

会場：S6会場(講義棟7階 K703教室)

CREST「超空間制御」研究成果報告会を開催いたします。これまでの5回のシンポジウムでは「超空間」を主役とした化学への展開、その可能性についていろいろな角度から、ホットな話題を中心に講演を行ってきました。今回はCREST「2014年度採択4課題」がいよいよ最終年度となりました。過去5年半のCREST研究で生まれたそれぞれの課題の研究成果をわかりやすく説明いたします。いずれも挑戦的でキラリと光る独創的な課題であり、多くの重要な成果が生まれました。ご期待下さい。

プログラム

- 13:30- CREST趣旨説明(三菱ケミカル) 瀬戸山 亨
13:45- アニオン超空間を活かした無機化合物の創製と機能開拓(京大) 陰山 洋
14:15- ソフトナノ空間を形成する自己組織化液晶高分子を基盤とする革新的輸送材料の創製(東大) 加藤 隆史

- 14:45- 超空間制御触媒による不活性低級アルカンの自在転換(早大) 関根 泰
15:15- 空間局在・分子超潤滑に基づく時空間空隙設計と高機能表示材料創生(京大) 山本 潤

参加費：無料(定員100名)

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ：国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略研究推進部
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
電話(03)3512-3525 FAX(03)3222-2066
E-mail: CREST@jst.go.jp

ナノ空間を反応場・デバイスとして活用する物質科学

主催：日本学術振興会「国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業」

共催：長崎大学大学院工学研究科

後援：文部科学省 新学術領域研究「精密制御反応場」, 「配位アシンメトリ」

日時：3月23日(月) 13時30分~16時30分

会場：S4会場(講義棟7階K701教室)

日本学術振興会「国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業」(グリーンナノサイエンスの世界的研究拠点形成を志向した研究者育成)の成果報告会の一環として、合成化学・触媒化学・錯体化学・超分子化学の各分野で国際的に活躍している連携大学の外国人研究者を招へいし、次世代の学際的物質科学を志向した討論会を開催します。海外からの招へい者として、G. Clever(ドルトムント工大), E. Meggers(マールブルグ大), O. Wenger(バーゼル大)を予定しています。

プログラム

- 13:30- Opening Remarks (Nagasaki Univ.) Masanari Kimura
13:35- Asymmetric Catalysis Directed by Metal-Centered Chirality (Phillipps-Universität Marburg) Eric Meggers
14:20- Allylic and Benzylic C-O Bond Cleavage Promoted by Pd/Phosphine-Borane Catalyst System (Nagasaki Univ.) Gen Onodera
14:40- Heteroleptic Coordination Environments and Architectures by Design (TU Dortmund Univ.) Guido Clever
15:25- Supramolecular Luminescent Metal Complexes Insulated by a Hydrogen-bonded Capsule (Nagasaki Univ.) Shinnosuke Horiuchi
15:45- Luminescence and Photoredox Chemistry of Metal Complexes made from Earth-abundant Elements (Univ. of Basel) Oliver Wenger

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ：長崎大学大学院工学研究科 木村 正成
〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14
電話(095)819-2677
E-mail: masanari@nagasaki-u.ac.jp

TIA 連携プログラム探索事業「かけはし」量子反応シンポジウム

主催：国立研究開発法人物質・材料研究機構 エネルギー・環境材料研究拠点

共催：TIA 連携プログラム探索事業「かけはし」

日時：3月24日(火) 9時30分~12時30分

会場：S7会場(講義棟7階K704教室)

TIA「かけはし」は、NIMSや東大などの研究機関が組織の枠を超えて連携し、「新領域を開拓するための支援」と「新しい知の

創造と産業界への橋渡し」を行うこと使命とする事業です。その中で、2019年度に新たに発足した「微視的電極過程における量子効果」プロジェクトでは、組織のみならず分野の枠を超え、実験と計算・化学と物理を融合させることでエネルギー変換反応の基礎的理解と新規原理による高効率化を目指します。今回のシンポジウムでは、当該プロジェクトに参画する研究者とともに、電極過程や反応における量子効果の研究において、先導的役割を果たしている研究者たちによる基調講演や招待講演などを企画します。

プログラム

- 09:30- 開会挨拶・趣旨説明 量子電極過程：1931年から2020年までの総括と今後の展望(物材機構)坂牛 健
10:00- 基調講演 白金電極上の水素の量子状態(東大)杉野 修
10:50- 休憩
10:55- 招待講演 反応経路に基づく動力学効果と量子効果へのアプローチ(北大)武次 徹也
11:25- 招待講演 水素の量子効果・同位体効果(原子力機構)志賀 基之
11:55- 招待講演 超高速ラマン分光で観る光受容タンパク質におけるプロトン移動ダイナミクス(理研)倉持 光
12:25- 閉会挨拶(物材機構)高田 和典

参加費：無料

申込方法：電子メールにて事前受付。

E-mail: sakaushi.ken@nims.go.jp

問合せ：国立研究開発法人物質・材料研究機構 エネルギー・環境材料研究拠点 坂牛

〒305-0044 つくば市並木1-1

E-mail: sakaushi.ken@nims.go.jp

Reaxys Prize Club シンポジウム in Japan 2020

主催：エルゼビア・ジャパン株式会社

日時：3月24日(火)9時30分~12時30分

会場：S4会場(講義棟7階K701教室)

Reaxys PhD Prizeは、優れた化学博士課程の学生および新卒者の研究力を評価し、その研究成果とキャリアパスを広げるための支援を提供することによって、化学に革新をもたらす創造性の育成を目的として2010年から開催している国際アワードで、本年度10年目を迎えます。化学会にて恒例となりました「Reaxys Prize Club シンポジウム in Japan」では、Reaxys PhD Prize 受賞者とファイナリストからなるReaxys Prize Clubの若手研究者による研究発表をはじめ、著名な化学者からの基調講演や特別講演等のセッションを企画しております。多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

プログラム

- 9:30- 開演挨拶
9:40- 基調講演(北海道大学大学院工学研究院・教授)伊藤 肇
10:30- Reaxys Prize Club メンバーズからの研究発表(早稲田大学先進理工学部・講師)武藤 慶(京都大学化学研究所)高畑 遼
12:00- エルゼビアセッション
12:25- 閉会挨拶
※プログラムは調整中のため変更が入る可能性があります。予めご了承ください。

参加費：無料

申込方法：申込不要(春季年会参加者)。直接会場にお越し下さい。

問合せ：エルゼビア・ジャパン株式会社 リサーチソリューションズ マーケティング担当

〒106-0044 東京都港区東麻布1-9-15 東麻布1丁目ビル4階
電話(03)5561-5034(代表)

E-mail: jp.pr@elsevier.com

変化する化学研究手法に合わせた キャリアを考える

主催：株式会社リバネス
日時：3月24日(火) 11時30分～13時00分
会場：S8会場(講義棟7階K705教室)

情報科学の発展により、化学研究の手法は変わりつつある。特にこれからは、データ駆動型の化学が大きくなると予想され、若手の化学研究者がどのような研究キャリアを進めるか、考える素材が必要だろう。そこで、ケモインフォマティクス分野でベンチャーとして活躍する起業家などを交えて、研究者の新たなキャリアの可能性について議論する。

プログラム

11:30- 話題提供(株式会社リバネス)
11:45- 登壇者紹介
12:00- ランチョンパネルディスカッション
12:50- 閉会挨拶

参加費：無料

申込方法：下記 URL より事前申し込み
<https://lne.st/chem200324>

席数に余裕がある場合には当日参加も受け付けます。

問合せ：株式会社リバネス 齊藤、重永
〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル5F
電話(03)5227-4198 FAX(03)5227-4199
E-mail: info@lne.st

ハイドロジェノミクス： 高次水素機能による革新的材料・ デバイス・反応プロセスの創成

主催：文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究(研究領域提案型) ハイドロジェノミクス：高次水素機能による革新的材料・デバイス・反応プロセスの創成
日時：3月24日(火) 13時30分～16時30分
会場：S6会場(講義棟7階K703教室)

ハイドロジェノミクスとは、Hydrogen(水素)-omics(学問体系)であり、変幻自在な水素の性質を、人類が“使いこなす”ための指導原理となる新たな水素科学の構築を目指しています。本シンポジウムでは、まず、ハイドロジェノミクス・プロジェクトの挑戦の概要について述べた後に、高次水素機能をもつ革新的材料(プロトン・ヒドリド・リチウム高速伝導体、水素系超伝導体)・デバイス(燃料電池、電気化学デバイス)・反応プロセス(水素化反応)の創成について、化学が工学、物理学、生物学など幅広い分野と連携し、実験と理論が協働で創出している成果を紹介致します。皆様のご来場をお待ちしております。

プログラム

座長：宮武 健治(山梨大クリーンエネ研セ)
13:30- 主旨説明(東大物性研)森 初果
13:35- 高密度水素化物の材料科学—ハイドロジェノミクスでの挑戦—(東北大 AIMR/金研)折茂 慎一
14:00- 金属錯体による水素の高活性化—水素社会の基盤技術開発を目指して—(京大院人間環境)藤田 健一
14:25- 創蓄電デバイスの設計に向けた水素貯蔵高分子の高性能化(早大先進理工)小柳津 研一
座長：山内 美穂(九大ICNER)
14:50- ヒドリド導電体の物質開拓と電気化学デバイスへの応用可能性(分子研)小林 玄器
15:15- 金属水素化物エピタキシャル薄膜合成と電子・光学・イオン伝導機能(東工大物質理工学院)一杉 太郎
15:40- 中性子散乱による水素の観測(KEK物構研)大友 季哉

16:05- 計測とシミュレーションの水素データ同化(東大院理)常行 真司

参加費：無料。日本化学会年會に参加登録されていない方も無料で入場できます。

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ：東京大学物性研究所 森 初果

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5-1-5

E-mail: hmori@issp.u-tokyo.ac.jp

ご案内：2020年秋に第2期公募研究の募集を行う予定です。

領域 URL: <https://www.hydrogenomics.jp/index.html>

超分子化学アジア会議

主催：日本化学会 国際交流委員会

共催：金沢大学ナノ生命科学研究所(WPI-NanoLSI)

日時：3月22日(日) 9時30分～16時30分

3月23日(月) 9時00分～17時05分

会場：S2会場(講義棟1階K103教室)

本シンポジウムは日本化学会春季年會100回の記念事業として、また国際交流活動の一環として日本5名、中国5名、韓国5名の超分子分野のライジングスターを招き、金沢大学ナノ生命科学研究所(WPI-NanoLSI)と共同で開催するものです。代表者：澤本光男常務理事、Organizer：生越友樹(京大院工・金沢大WPI-NanoLSI)、Co-organizer：秋根茂久(金沢大WPI-NanoLSI)、前田勝浩(金沢大WPI-NanoLSI)、Honorary Organizer：藤田誠(東大院工)、八島栄次(名大院工)により本会議を開催します。本シンポジウムを起点として、アジア各国の超分子分野のライジングスターが継続的に集結する機会となり、アジアにおける超分子化学の更なる発展を促すことを期待しています。また本シンポジウムが、将来の日中韓間ネットワークの基盤構築を目的として、若い世代が向き合い、サイエンスだけでなく、個人的な人間関係を構築しながら理解を深める機会となることを期待しています。

プログラム

3月22日(日)

9:30- Opening Remarks (Managing Director CSJ, Chubu Univ.) SAWAMOTO, Mitsuo

9:40- Living Supramolecular Polymerization (NIMS) SUGIYASU, Kazunori

10:20- Artificially Designed High-Affinity Binding Pairs as a Novel Molecular Anchoring Tool for Chemical Biology (Inst. for Basic Sci.) PARK, Kyeng Min

11:05- Cellular Synthesis of Topological Proteins (Peking Univ.) ZHANG, Wen-Bin

11:45- Subnanometer-Resolution Atomic Force Microscopy in Liquid for Supramolecular Chemistry (Kanazawa Univ.) ASAKAWA, Hitoshi

13:30- N-Heterocyclic Imidazoliums and Carbenes as Key Functions in Metal-Organic Materials (POSTECH) LEE, Eunsung

14:10- Biomimetic Molecular Recognition in Water (SUS Tech.) JIANG, Wei

15:00-16:30 ATP Poster Session

3月23日(月)

9:00- Design and Functions of Supramolecular Materials Formed by Reversible and Movable Cross-Linkers (Osaka Univ.) TAKASHIMA, Yoshinori

9:40- Adaptive Supramolecular Nanomaterials (Korea Univ.) KIM, Yongju

10:30- Luminescent Organic Supramolecular Single Crystals (Jilin Univ.) ZHANG, Hongyu

11:10- Supramolecular Polyaromatic Capsules with Unusual Host Functions (Tokyo Inst. of Tech.) YOSHIZAWA, Michito

13:30- Rational Design of Responsive Metal-Organic Frameworks with Macrocyclic Complexes (UNIST) MOON, Hoi Ri

- 14:10- New Methods for Controllable Supramolecular Polymerization (Tsinghua Univ.) XU, Jiang-Fei
 15:00- Kinetically-Controlled Supramolecular Host-Guest Systems (Kanazawa Univ.) SAKATA, Yoko
 15:40- In vivo Proteomic Architecture Mapping by Proximity Labeling (Seoul Natl. Univ.) RHEE, Hyun-Woo
 16:20- Self-Assembly of Alternating Copolymers (Shanghai Jiao Tong Univ.) ZHOU, Yongfeng
 17:00- Closing Remarks (Kyoto Univ., Kanazawa Univ.) OGOSHI, Tomoki

参加費：無料（年会参加登録者に限る）

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 徳橋

電話(03)3292-6163

E-mail: tokuhashi@chemistry.or.jp

URL: <http://chem.s.kanazawa-u.ac.jp/coord/event/acsc2020/>

化学と情報科学との融合

主催：日本化学会 学術研究活性化委員会
日時：3月22日(日) 13時30分～17時30分
会場：S8会場（講義棟7階 K705教室）

情報科学技術が目覚ましく進展している今日において、情報科学と化学がうまく融合するためにはどのような仕組みが必要なのか、それらを支援する具体的な施策について、日本学術会議において提言書のとりまとめ作業が進められている。(1)産官学からなる「新化学創成協議会」の設置、(2)情報科学を活用した化学教育の変革、(3)散在する化学データベースを統合的に管理する「新化学創成センター」の新設、(4)多分野参画型の産学官連携大型国家プロジェクトの提案等が検討されている。ここでは、日本化学会においても広く議論を行うため、本シンポジウム企画した。

プログラム

- 座長：長谷部 伸治（京大院工）・佐藤 一彦（産総研触媒化学融合研セ）
 13:30- 趣旨説明（東北大 WPI-AIMR）阿尻 雅文
 13:45- 合成化学における AI の意味（京大院工）松原 誠二郎
 14:20- 学ぶ AI から使う AI へ「AI と化学」の時代の情報教育—（大阪電通大工）阿久津 典子
 14:55- 化学データの戦略的収集と戦略的創出（帝人ファーマ株式会社）上村 みどり
 15:30- 新化学創成センター—AI 時代のデータ創出と機能分子創成—（産総研・主任研究員）石原 司
 16:05- 化学と AI—学術から生産プロセスまで—（農工大院工）山下 善之
 16:40- 総合討議
 パネリスト：松原 誠二郎・阿久津 典子・上村 みどり・石原 司・山下 善之・長谷部 伸治・佐藤 一彦・阿尻 雅文（8名）

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 徳橋

電話(03)3292-6163

E-mail: tokuhashi@chemistry.or.jp

天然物および生物有機化学に関する 中西シンポジウム 2020

主催：日本化学会 中西シンポジウム実行委員会
日時：3月22日(日) 13時30分～17時30分
場所：SA会場（12号館1階 1211教室）

中西シンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取決めにより偶数年度は日本で、奇数年度は米国にて選考されるナカニシ・プライズの受賞講演を含み、該当国で交互に開催されている。本プライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、生合成および全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は本化学会に設置された選考委員会によって、岸義人教授（ハーバード大学名誉教授）に授与されることに決定した。よって本企画は選考理由である「有機合成化学における顕著な業績とそれを用いた生命科学への貢献」に基づき、受賞者による講演に加えてこれに関連する最新の研究成果を周辺分野の研究者に紹介していただく。

プログラム

- ◆ 13:30-14:00 ナカニシ・プライズ授賞式
 授与者：川合 眞紀（日本化学会会長）
 座長：村田 道雄（阪大）
 Nakanishi Prize 2020 Awardee: 岸 義人（ハーバード大名誉教授）
 ◆ 14:00-17:00 中西シンポジウム
 座長：有本 博一（東北大）
 14:00- Synthetic Studies on Biologically Active Natural Products toward Practical Application（徳島大）難波 康祐
 14:30- Synthesis of Polycyclic Alkaloids Based on Dearomative Oxidative Cyclization（東京農工大）長澤 和夫
 座長：及川 英秋（北大）
 15:00- Lessons from Total Synthesis of Carthamin, A Red Pigment from Safflower (Benibana)（東工大）鈴木 啓介
 15:30- Studies on the Total Synthesis of Tetrodotoxin（東大名誉教授）福山 透
 16:00- 休憩
 座長：村田 道雄（阪大）
 16:10- 受賞記念講演 Beyond Total Synthesis of Complex Natural Products（ハーバード大名誉教授）岸 義人

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：及川 英秋 E-mail: hoik@sci.hokudai.ac.jp

日本化学会 企画部 櫻田

〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5

電話(03)3292-6163

E-mail: sakurada@chemistry.or.jp

第14回化学遺産市民公開講座

主催：日本化学会 化学遺産委員会・化学史学会
共催：日本化学工業協会
日時：3月22日(日) 13時30分～17時00分
会場：S6会場（講義棟7階 K703教室）

化学遺産委員会では、2009年度から化学関連の学術あるいは技術遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な史料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し、これまでに10回50件を認定・顕彰した。2019年度も前年度同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選定し、対象候補17件の調査・検証作業を行った。今回の市民講座では、特別講演1件とともに本年度第11回化学遺産として認定予定のものの具体的な内容をわかりやすく紹介する。

プログラム

- 座長兼総合司会（東理大）宮村 一夫
 13:30- 開会挨拶（化学遺産委員会委員長/京大名誉）植村 榮
 13:40- 我が国における蛋白質結晶学のあけぼの（兵庫県大院生命科学）月原 富武
 14:10- 近代化学教育の礎を築いた「大阪開成所全図」にみる舎密局（元京大）藤田 英夫
 14:40- 日本初の純国産金属マグネシウム事業の誕生とその経過（宇部マテリアルズ）加藤 裕三

15:10- 日本初の西洋医学処方「美顔水」を生み出した桃谷順天館の歩み(桃谷順天館) 藤本 謙介
(休憩 10分)
15:50- (特別講演)「しょうゆの基礎知識」(キックマン) 岡村 弘孝
16:50- 閉会挨拶(東理大) 宮村 一夫

参加費: 無料。希望者には別途資料有料配布(予価 1,000円)
申込方法: 事前申込不要。当日会場にて受付。
問合せ先: 日本化学会 企画部 飛渡
電話(03)3292-6163
E-mail: chemarch@chemistry.or.jp
URL: <http://www.chemistry.or.jp/known/heritage/>

第27回化学教育フォーラム 「観察, 実験を位置づけた 授業実践ができる教員の育成」

主催: 日本化学会 化学教育フォーラム企画小委員会
日時: 3月22日(日) 13時30分~17時05分
場所: S5会場(講義棟7階 K702教室)

教員養成の課題のひとつとして、「課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力を育む指導力を身につけることの必要性」が指摘されており, 理科においては, 観察・実験に関わる指導力の育成が欠かせない。しかし, 様々な調査で, 高等学校における観察, 実験の実施頻度は低い傾向にあることが報告されている。大学においても, 中学校, 高等学校で行われている観察, 実験について, 指導者の立場から検討を加える学びは必ずしも十分には行われておらず, 教育実習の指導の現場では, 内容に関する知識を持ち合わせていても, 観察・実験の指導のプロセスや, 観察・実験の手立てについて, 困難を感じている学生が存在する。新しい学習指導要領が告示され, 資質, 能力の育成がこれまで以上に求められている。完全実施を目前にした今, 実践的な指導力を備えた教員の養成および研修について, 改めて考える機会としたい。

プログラム

13:30~16:00
講演1(仮題) 教員研修の立場から
東京農工大学 名誉教授 佐藤 友久
講演2(仮題) 教員研修の立場から
静岡県総合教育センター 参事 飯田 寛志
講演3(仮題) 教育実習の立場から
東京学芸大学附属高等学校 主幹教諭 坂井 英夫
講演4(仮題) 教育現場における実践者の立場から
埼玉県立越谷北高等学校 教諭 茂申 圭男
16:05~17:05 パネルディスカッション

参加費: 無料
申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 企画部 大倉
E-mail: ohkura@chemistry.co.jp

大学生・大学院生のための キャリアパスを考える相談会 (ランチンセミナー) ~企業で研究者になるために必要な ことは? 今の研究をどう活かす?~

主催: 日本化学会 産学交流委員会人材交流小委員会
日時: 3月23日(月) 11時30分~13時05分
会場: S3会場(講義棟6階 K601教室)

科学技術で生き残りを図る日本においては, 科学技術を推進す

る原動力, イノベーションの担い手として, アカデミアのみならず産業界においても高度な知識と研究開発力を持った人材が, 変革の時代を迎える今こそ必要です。本企画は, 「企業で研究者になるために必要なことは? 今の研究をどう活かす?」を知るため, 企業の研究者・研究管理者に質問し答えてもらうことで, あなたのキャリアパスを考えるランチン(食事付き)形式の相談会です。例年, 就職活動について, 講師の方の仕事内容, 大学での研究がどのように活かされているか等, 幅広い話題を少人数でじっくりお話ししてもらっています。参加者からは, 「親身に話を聞いてくれて, 話しやすかった。」「様々な企業・経歴を持った講師の方がいたので, 色々な話を聞けた。」「今後のキャリアを考える機会になった。」等の声をいただいております。

対象者: 大学生・大学院生でキャリアパスについて企業の研究者と相談したい方

プログラム

11:30- 開会挨拶(神奈川工科大学, 人材交流小委員会委員長) 高村 岳樹
11:35- 話題提供『企業が求める研究者とは?』(東レ経営研究所) 長瀬 公一
11:50- 企業研究者・研究管理者紹介
■企業研究管理者: 赤井 俊雄(三菱ケミカル), 高柳 大(味の素), 長瀬 公一(東レ経営研究所), 矢作 和行(花王)
■企業若手研究者: 稲垣 翔(DIC), 上友 淳弘(ダイセル), 齋藤 真一(BASF ジャパン), 高須 修平(ニコン)
■女性研究者・研究管理者: 奥山 泰世(出光興産), 櫻庭 彩子(花王), 吉岡 菜由(住友化学), 渡辺 訓江(プリチストン)
12:00- グループに分かれて相談会(ランチン形式での気軽な座談会です。企業研究者が親身になって, 皆様の質問にお答えします。)
13:00- 閉会挨拶(花王, 人材交流小委員会副委員長) 矢作 和行

参加費: 無料(年会登録者に限る)
申込方法: Webよりお申込み下さい。(先着50名)
席数に余裕がある場合には, 当日の朝10時より総合受付付近にて整理券を配布する予定です。
<https://event.cs.jp/form/view.php?id=430289>
問合せ先: 日本化学会 企画部 河瀬・矢部
電話(03)3292-6163
E-mail: sangaku@chemistry.or.jp



ケミカルレコード・レクチャー 2020

主催: 日本化学会・Wiley-VCH
日時: 3月24日(火) 10時30分~11時30分
会場: S2会場(講義棟1階 K103教室)

日本の化学関係8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌“The Chemical Record”は, 2011年より日本化学会の雑誌としてリニューアルした。Wiley-VCHとの本格的な提携によりインパクト・ファクターも着実に向上している。今回は Prof. Benjamin List(ドイツ マックス・プランク石炭研究所)を講師としてお招きし TCR Lectureを開催する。

プログラム

座長: 丸岡啓二 The Chemical Record 編集委員長
10:30- Very Strong and Confined Chiral Acids: Universal Catalysts for Asymmetric Synthesis?
(ドイツ マックス・プランク石炭研究所) Prof. Benjamin List

参加費: 無料
申込方法: 直接会場にお越し下さい
URL: <http://www.chemistry.or.jp/event/calendar/2020/01/2020.html>
問合せ先: 日本化学会 学術情報部 中村 史夫
電話(03)3292-6165
E-mail: nakamura@chemistry.or.jp

論説フォーラム, 徹底討論, 「大学革命—今やらなければ—: 第2弾」

主催: 日本化学会 論説委員会
日時: 3月24日(火) 9時30分~12時30分
会場: S1 会場 (講義棟1階 K101 教室)

わが国の科学技術力, 論文の質・量の低下に歯止めがかからない。研究と人材育成の中核を担う大学は観念的な目標を述べる時期は過ぎた。大学人・研究者自らがアクションプランをたて, 大学に革命を起こすべき時が到来していると認識すべきである。国・文科省からの要求ではなく, 研究力の強化を大学が自力でできることはなにか, 各大学が独自で改革できることはないのか, 就活はこのままでよいのか, 等を議論する場として, 論説フォーラム徹底討論「大学革命—今やらなければ—: 第2弾」を開催する。講演者, パネラーには海外の大学経験の豊富な研究者, 大学運営に携わる研究者, 産業界の経営陣, 経団連の代表者も交えて議論をする。本フォーラムは2テーマ構成(大学革命と就活革命)で進める。

プログラム ※予定

9:30- 挨拶 玉尾 皓平(豊田理研, 論説委員会委員長)
9:35- セッション I: 大学の経営革命
講演: 渡辺 芳人(名古屋大学審議役)
司会: 山本 尚(中部大学・化学会前会長)
パネルディスカッション
パネラー: 射場 英紀(トヨタ自動車), 藤田 誠(東京大学), 上杉 志成(京都大学), 蔦巢 守(大阪大学)
11:00- セッション II: 大学院生の就活革命
講演: 長谷川 知子(経団連 SDGs 本部本部長)
司会: 菅 裕明(東京大学)
パネルディスカッション
パネラー: 若宮 淳志(京都大学), 阿部 竜(京都大学), 辻 良太郎(カネカ)

参加費: 無料
申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
URL: <http://www.chemistry.or.jp/event/calendar/2020/01/post-432.html>
問合せ先: 日本化学会 学術情報部 中村史夫
電話(03)3292-6165
E-mail: nakamura@chemistry.or.jp

第2回 台湾化学会/日本化学会 国際シンポジウム —Catalyst for Energy Conversion & Storage—

主催: 日本化学会 国際交流委員会
日時: 3月24日(火) 13時30分~17時30分
場所: S1 会場 (講義棟1階 K101 教室)

本会は国際活動の一環として, 2018年に台湾化学会 (Chemical Society Located in Taipei; CSLT) と二学会間の交流覚書 (MOU) を締結し, 毎年交互に若手研究者を招聘して日台シンポジウムを開催することとしました。次世代を担う若手化学者による国際交流活性化と, トップレベルの化学者が深い議論を行うことを目的とし, 今回は「Catalyst for Energy Conversion and Storage」をテーマに開催します。

プログラム

13:00- 冒頭挨拶 (日本化学会常務理事) 澤本 光男・
(台湾化学会会長) Chain-Shu Hsu
座長: 坂本 雅典 (京大)

- 13:10- Metal-complex/Semiconductor Hybrid Photocatalysts and Photoelectrodes for Visible-light CO₂ Reduction (東工大) 前田 和彦
13:45- Computational Modeling for CO₂ Electrochemical Reduction on Cu-based Materials (国立台湾師範大) Ming-Kang Tsai 座長: 前田 和彦 (東工大)
14:25- Development of Function-integrated Catalytic System for Small Molecule Conversion (阪大) 近藤 美欧
15:00- Crystal Engineering of Bimetallic Nanoparticle for Energy Conversion Catalytic Applications (国立清華大) Yung-Tin Pan 座長: 近藤 美欧 (阪大)
15:40- Plasmonic p-n Junction for Infrared Light to Chemical Energy Conversion (京大) 坂本 雅典
16:15- Bridging Energy and Chemistry via Nanoarchitectonic Engineering at Atomic Scale (中央研究院化学研) Chun-Hong Kuo
16:50- 閉会挨拶 (京大) 阿部 竜

参加費: 無料
申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 企画部 櫻田
〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
電話(03)3292-6163
E-mail: sakurada@chemistry.or.jp

CSJ ジャーナルフォーラム 「研究成果を世界に魅せる」

主催: 日本化学会 ジャーナル戦略小委員会
日時: 3月24日(火) 13時30分~15時30分
会場: S2 会場 (講義棟1階 K103 教室)

日本化学会が刊行するジャーナル2誌 Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と Chemistry Letters (CL) は, 2013年より科研費の補助を受け, 国際的なビジビリティの向上のため様々な取り組みを行い, 掲載論文の質の向上, インパクトファクターの向上などの成果を挙げている。本フォーラムでは, この2誌の取組みを紹介するとともに, 「研究成果を世界に魅せる」ために, 化学系論文に関する世界のトレンドと最新情報, 論文執筆やプレゼン資料作成のポイント, 論文英語の注意点など, 研究者必須の情報を提供する。

プログラム

- 13:30- 開会あいさつ (早大, ジャーナル戦略小委員会委員長) 黒田 一幸
13:35- CSJ ジャーナル「何が変わった? 何が変わる?」(東大, CL 編集委員長) 塩谷 光彦
13:50- 研究成果を見せていますか? 魅せていますか? (クラリベイト・アナリティクス) 辻 幸子
14:20- トップジャーナルへの道, すべて教えます(東大) 藤田 誠
15:05- 論文執筆にあたり気を付けるべき英語のポイント (日化) ジェンセン・レイダー
15:25- 閉会あいさつ (物材機構, BCSJ 編集委員長) 有賀 克彦

参加費: 無料
申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 学術情報部 中谷
電話(03)3292-6165
E-mail: nakaya@chemistry.or.jp

第20回シンポジウム 働き方改革時代における プロモーションとマネジメント

主催: 日本化学会 男女共同参画推進委員会
日時: 3月24日(火) 15時00分~17時10分

会場：S4 会場（講義棟 7 階 K701 教室）

男女共同参画推進委員会では、毎年男女共同参画シンポジウムを開催し、女性や若手の研究者・技術者の活躍増進、男女を問わず学生の進路選択や将来の活躍の支援を目指して、活動を行っている。第 100 回春季年会では、働き方改革といった新しい時代の変革に際して、キャリア形成の新しい動向や産業界・アカデミアの取り組みについて、お話をいただいた上で、講演会参加者も含めてディスカッションを行う。ディスカッションを通して、働き方改革時代の化学界、産業界、社会の在り方について、考えていく。

プログラム

座長：三浦 佳子（九大）・野々村 美宗（山形大）

15:00- 趣旨説明 挨拶（東北大）北川 尚美

15:05- 女性化学者奨励賞 受賞者紹介
15:15- 倦まず弛まず自然体で破天荒な開拓者として（室蘭工業大）高瀬 舞
15:35- 企業での働き方（旭化成）穂高 ゆき
15:55- アカデミアでの働き方改革の取り組み（北大）長堀 紀子
16:15- 企業における働き方改革（ポラ化成工業）小林 和法
16:35- 全体ディスカッション
17:05- 閉会挨拶
17:30- 交流会

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合先：日本化学会 企画部 徳橋、竹内

電話(03)3292-6163

E-mail: danjo@chemistry.or.jp